



三つ柏
葛西家

郷土のかぜ

仙台市民図書館 郷土資料コーナー

年頭に当たり郷土担当一同、気持ちを新たにして「郷土のかぜ」の編集・発行に努めてまいります。

「合略仮名」とは

郷土担当 小石川正弘

1
片
氏

「郷土のかぜ」の熱心な読者 S さんが来館され「明治時代に発行された宮城県文書を見ていたら、変な記号が出てきた…」と。その正体を知りたいとおっしゃいます。文書から書き写してきたのが左の 3 種類。それを見た私、文字なのか記号なのか判断に苦しみました。考えていくうちに、真ん中のキに似ているのが「数年前に調査した件では…」と思い出したのです。同僚の Y さんに聞いてみると「合略仮名」では…そこで「合略」の意味を『広辞苑』で調べてみますと…えっ、記載がありません！『現代漢和辞典』にも！所蔵の辞書類にも見つかりません。おかしい、もう一度『広辞苑』で「合」のあたりをよく見ていくと、綴じ目近くに「合字」というのが見つかりました。どうも「合略」と「合字」は同じ意味合いを持つようです。

資料調査も進み、意味も分かってきました。それは、二文字以上の文字を合わせてできた文字で「磨（麻呂）」「柰（木工）」などがあり、文書の中の文字は上から「コト」「トキ」「トモ」と読むことが分かりました。なんとなくそんな風に見えてきませんか。

このような合略＝合字は、江戸時代頃には多く使用されていたようですが、『国語施策百年史』R810/㍻の P108～明治 33 年 2 月 9 日の衆議院本会議における「国字国語国文ノ改良ニ関スル建議案」の提議に関する記述を見つけました。さらに、同資料の P924 の国語施策年表の中に、明治 33 年「小学校令施行規則」第 16 条で「仮名字体の一定（変体仮名廃止）」が発表された旨について記載がありました。『広辞苑』によれば、変体仮名とは「現在普通に使用されている平かな（1900 年小学校令施行規則で採用）と違う字源またはくずし方のかな」とあります。また『読めれば楽しい！古文書入門 利休・歌麿・芭蕉の“くずし字”を読む』210/㍻の P182 に「くずし字解説」があり、その中でも標記 3 文字の合字が紹介されていました。さらに、『日本人の知らない日本語 全 4 巻』810/㍻の 1 巻目の P63 第 5 章「知られざる仮名の過去」の中で漫画で紹介されていますから、楽しく読むことが出来るでしょう。

■ 資料紹介

『東北の名城を歩く 北東北編（青森・岩手・秋田）』飯村 均・室野秀文 編 吉川弘文館 S29/㍻

『東北の名城を歩く 南東北編（宮城・福島・山形）』飯村 均・室野秀文 編 吉川弘文館 S29/㍻

城、ちょっとしたブームではないでしょうか。城に関するレファレンスは遠方から来館された方が多く、何冊かの資料をお出しすると熱心にメモや複写をされています。

ところで城（城館）とは何だろうとなります。上記資料によると、考古学の立場からする、「切岸（きりぎし）、堀や土塁で区画された空間」と紹介しています。さらに、大きく分けた時代（例えば古墳時代と言うように）での城の位置づけもされているので、城館建築の時代の流れも理解できます。宮城県の城館の紹介は 21 ヶ所、中心となるのが国指定史跡となっている仙台城です。地図も添付されているので、地形をうまく利用して城館建築が行われていることも確認できます。

仙台藩における遊女屋と御船入堀（貞山堀）

若林区 鈴木 京

江戸時代・万治元年(1658) **伊達綱宗** が仙台藩三代藩主に就任する。

万治3年(1660)仙台藩は幕府の命により、江戸・小石川堀の普請を命じられた。藩主・伊達綱宗自ら江戸に出向き監督にあっていた折、常日頃の酒狂と吉原通いのことが幕府の耳に入っていた。それより先のこと、殿の行状がひどすぎ家臣の忠告も聞き入れないことは藩滅亡の危機と考え、仙台藩の一門・重臣14名は、幕府に三代藩主・伊達綱宗の隠居を願い出ている事もあり、万治3年7月18日、三代藩主・伊達綱宗(21歳)は、幕府より逼塞(隠居)を言い渡された。その年の秋頃、謹慎の意を表し仙台北下の舟丁、榴ヶ岡、二日町周辺外藩内に多数点在していた遊女屋営業をご法度とした。

それから四半世紀後、貞享2年(1685)12月25日、四代藩主・**伊達綱村** は下記の事情により塩竈に対し特令を出した。

仙台藩は寛文10年(1670)より3ヶ年を要し、塩竈の牛生～大代～蒲生間に水路・御舟入堀を開削。さらに、七北田川の福田町から御曳堀という水路を苦竹の米蔵まで延長させた。仙北諸郡の米等物資は鳴瀬川の舟運で野蒜に集約され、そこから小廻り舟で塩竈に運ばれ、塩竈から駄送にて仙台北下に運ばれていたが、御舟曳堀の完成により米等物資が塩竈を通過し蒲生に集約した。このことにより、仙台の門戸港としての塩竈が著しく衰退した。これを見かねた四代藩主・伊達綱村は塩竈神社と門前町の殷盛を保持したいと、敬神の観念から米以外の物資は塩竈港をもって自他国船舶の発着とした。塩竈の民に対し緒役・年租を免じ、かつ250両を町民・各戸に分与するとの特令を出した。その折、塩竈の賑いを取り戻すために遊女屋営業を許可した。この特令及び遊女屋営業は、江戸時代継続された。同じ頃、石巻では北上川を改修し、北上川を石巻まで開削させた。そこで、塩竈と同様に、石巻の賑いを願い、遊女屋を許可した。

尚、御舟入堀は、明治初期に宮城県により整備され、初代藩主・**伊達政宗** が**貞山公** と名乗っていたので「**貞山堀**」と名付けた。

■ 地図の利用について

郷土資料コーナーで「一番利用が多い資料は」と聞かれれば「各種地図と新聞」と答えます。新聞はさておき、地図利用で最も多いのが仙台市の『**ゼンリン住宅地図**』、1974年発行(仙台市北部・南部)から揃えています。それ以前の地図となると、1964年発行の「**仙台市大鑑**」、1961年発行の「**仙台精密案内地誌**」などがあります。後者の資料は仙台市図書館で1冊しかない貴重な資料。使用頻度も多く、汚れや破れなどもみられますので、デジタル化の計画を進めています。完成はまだ先になりますが、地域の資料を安心してご利用いただけるように努めていきます。

■ 編集後記

2018年が始まりました。昨年は「あれもこれも取り上げてみたい」と計画していたのですが、はてどれくらいの達成率があったのか。できなかった部分は新しい年にと考えています。「郷土のかぜ」は7号分を発行することが出来ました。おおよそ2ヶ月に1号のペースです。これも皆様方からのご協力があったからと深く感謝しています。これからも調査・研究をまとめられ「郷土のかぜ」で発表されることをお願い申し上げます。

発行：仙台市民図書館 郷土資料コーナー (担当：小石川)
〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1 せんだいメディアテーク内 TEL022-261-1585